

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500016		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム優海		
所在地	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6		
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果市町村受理日	平成24年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成24年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔と変わりなく、定期船の入港が時計の役割である県内唯一の離島である御所浦。時には魚売りの音声が山に響き渡る。不便さが、不便と感じられないくらいに時間がゆっくりと流れ、昔から共に助け合った住民同士が今、一つ屋根の下で生活をしている。どこでも、いつでも馴染みの方々に会い、声を掛けていただき、地域に助けられ共に生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム優海”は海や島々を一望できる環境にあり、職員と入居者の弾む会話や労わりの支援の様子にホッと落ち着けるホームである。入居者・家族の思いに応えるため、又、職員の意識向上に繋げるため、今年度から理念と併せ、職員で検討した介護目標を掲げ、入居者一人ひとりのできる事を支援する為に、職員も特技や持ち味を活かし、それぞれができる力を発揮している。ホーム内の環境整備や楽しみ・自立に繋げる取り組み、それは必ず入居者を中心としたものである。又、積極的な地域への関わりは信頼を深め、今年度認知症デイとしてのサービス展開にも至っている。今後も実行力やアイデアに溢れた管理者を中心に、計画作成担当者や職員のケアが、離島というハードの面での困難さを感じさせない、ゆとりの支援が継続される事であろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で基本理念～ゆとりあるゆかいな生活のために～と、職員全員で決めた一年間の目標を～見て・聴いて・話そう～を唱和し、一日生活の中で職員が「出来ること」を、再確認し実践につなげている。	開設時からの基本理念に加え、今年度は全職員で～見て・聞いて・話そう～を年目標として掲げ、入居者・家族・地域をはじめ、ホームに関わる全ての人々に応える支援に努める事を日々確認して業務に当たっている。又、環境整備やレクリエーション・寄り添いながら個々に合ったコミュニケーション等、一人ひとりの職員が特技や持ち味を活かした「出来ること」の支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区お祭り、地域行事、花火大会などには寄付をしたり、昔からの伝統ある行事については、来訪していただいている。地域の清掃活動にも積極的に参加している。	地域の祭りやイベントに参加・見学の他、伝統行事である“よいとんご”は、来訪による披露があり、入居者の楽しみになっている。職員は日頃より近隣や地域の方々との挨拶の中で来訪を呼び掛け、夏まつりへの参加や、現在は定期的なボランティアによる料理や環境整備（草刈りなど）をはじめ、運営推進会議のメンバーとしても協力に至っている。	地域密着型の事業所として、ホームに出来る取り組みを模索しながら実践に繋げており、今後は幼児・小・中学生がイベントや行事以外でも来訪できるような機会がある事で、定期的な訪問のあるボランティアと併せて、幅広い年齢の来訪が入居者の日常をより活気あるものに繋がる事が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、老人会のボランティアの受入も定着し、認知症を理解した上で会話をいただいている。また、外出、買い物、地域活動にも話しかけられる事が多くなっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括センター、地区長、老人会、民生委員、地区振興会の運営委員他、警察、消防、消防団、同サービス事業所、近隣代表などの協力により意見を繁栄することができている。	2ヶ月に1度定例化した会議は、地域代表者や地元駐在所、消防署・分署、小・中学校代表者、家族等、会議内容に応じた心強い参加者で実施されている。又、リビングで開催する事で入居者の日常を感じ取ってもらっている。会議の記録は入居者の活動が写真で掲載されわかりやすいと好評である。今年度発生した震災についてもマニュアルやホームの取り組みについて説明や意見交換が行われている。	ホーム運営に繋がる会議となるよう管理者は各会毎に議題や参加者等、毎回工夫を行いホーム運営に繋がたいとする意欲が窺える。今後も参加者が立場を活かした発言やアイデア等活発な意見交換によりサービス向上に活かされていく事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導はもとより事例のない問題などは相談の連絡を取って適切な指示を仰いでいる。	管理者や介護計画担当者はホームの現況を伝えながら、開設したデイサービスの運営についての疑問や問題点についても相談を行いアドバイスを受けている。又、地域包括支援センターの地域サブセンター職員とも連携を図りながら行政との協力関係に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束は無いものと認識し夜間の施錠以外はいつも自由に出入り出来るようにしている。また、研修に参加した職員を中心に勉強会を行い再認識する機会を設け、職員が常に意識できるように関連文章を掲示している。	拘束のない支援を基本とし、研修会に参加した職員の復講は、事例を通したわかりやすい報告に努め、拘束の禁止項目についても職員の目につくところに掲示し共有や意識付けを行っている。日中は自由に玄関先で喫煙やホーム愛犬との時間を楽しむ入居者の姿や、帰宅願望の強い方へも散歩や寄り添いながらのコミュニケーション、散歩など制限のない支援が確認された。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員による勉強会を開催し、日常支援している行動、言動を再確認、反省することで「してはいけない」を共有できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員による勉強会を開催にてある程度の理解は出来ているが現在の所、事例が無く活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭、文章でグループホームの特性、契約内容の説明を行っている。また利用者、家族の思い、不安や疑問など時間をかけて傾聴し理解、納得するまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの連絡事項、利用者の要望は個人経過記録、または業務日誌に記録を残し全職員に情報が共有出来るようにしている。また玄関には「意見箱」を設けている。	日頃より入居者や家族とのコミュニケーションを大切に、話しやすさや訪れやすいホームの雰囲気大切にしている。家族への電話や広報誌と一緒に入居者の状況を報告し意見や提案に繋げている。入居者の要望によるレクレーションやおやつ作り、趣味の継続などホーム内は笑顔と活気に溢れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回～2回の全体ミーティングでは代表者より運営内容などの報告ある。またミーティングの中での職員の意見についても、早急に対応できるように努めている。	代表者は全体ミーティングをはじめ、できるだけホームを訪れ職員とのコミュニケーションを図りながら意見や提案を聞き入れている。又、管理者は代表者や介護部長(計画作成者)とも連携を図りながら、馴染みの職員によるケアが継続できるように働きやすい環境に努めている。今後は職員アンケートの実施も予定されている。ホームは離島という立地から食材の購入も課題となり冷凍庫の購入が要望されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい勤務態勢にするなど各職員の状況に合わせて柔軟な対応が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、ホームの行事などについては管理者、職員に任せているが、必要な場合には適切な指導助言をしている。また同業者以外多種多様の職種との交流があり、いろいろな観点から職員へアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、天草GH連絡会などや他の研修等にも職員と一緒に参加し情報の共有ができるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者、本人宅に訪問し、相談内容を傾聴すると同時に悩みなど共有することで信頼関係につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの来訪、又は訪問で家族の意見を傾聴すると共に、本人の住居環境、生活歴の把握を行っている。またグループホームの役割を十分理解していただき、家族、本人が納得されるまで時間をかけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当を中心に、相談者、家族、本人の現在の問題点を検討し、多々の可能性を含めたサービスが出来るように他事業所と連携を図り本人に合った支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として、人生の先輩として、一人の人間として接することができている。また掃除、調理などIADL活動についても一緒におこなうことで良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事、個々の誕生会などには家族に参加していただき、ゆっくり食事をしていたく時間を提供している。また遠方の家族についても新聞を郵送し、本人の近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地区敬老会、地区祭りなどには出来るだけ参加していただき馴染み、知人の方々と会う機会を提供している。また自宅付近にドライブを兼ねて外出する機会を設けている。	地域の祭りや行事は入居者にとって馴染みであり、知人とも再会できる機会である事から、日々の健康管理に努めながら参加に繋げている。又、家族の協力による盆・正月の帰省、喫煙をされる方のタバコもその方のお店へドライブを兼ね購入に出かけている。昔からの伝統行事“よいとんご”の歌がいつまでも継承できるよう、入居者から発せられた歌詞を記録し、日頃から職員も一緒に歌っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の力量、趣味に合わせて支援している。出来る出来ないではなく、一緒に参加していただく事で利用者間のコミュニケーションが図れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事には案内をして参加していただいている。また町内で会った時には気軽に声をかけていただき近況報告を兼ねての会話ができている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの言葉を重視し支援をしている。意思決定の困難な利用者、発語困難な利用者については表情の観察、また職員からの情報収集と共に本人の立場になり支援するように努めている。	入居者一人ひとりの思いを受けとめる為に、同じ目の高さで、顔を見てゆっくり話を聞いてケアに当たる事を掲げている。又、職員間のコミュニケーションを大切に情報を共有し、本人本位の支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、趣味など、日常の会話の中で発見したり、知人、家族の方々の面会時に情報収集して全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の介護計画に添った支援で「出来ること」が継続出来るように支援している。少しの変化でも記録に記載し検討すべき点については早急に検討するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態について検討する必要がある場合には担当職員を中心に家族、利用者、計画作成担当を含め職員と検討をし「その人らしい生活」が遅れるように作成している。	計画作成担当者は、本人・家族の意向や関わる職員の意見や気づきを反映しながら「その人らしい生活」を支援する為のプランを作成している。基本的に半年ごとの見直しとしているが、3ヶ月など状況に応じ新プランに変更している。家族へは現状を伝えながら丁寧な説明を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添って記録すると共に気づきについては特記事項に記載し、月に一回担当職員による評価で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の事業所が福祉用具を取り扱っている為、利用者の機能に合わせた福祉用具が敏速に対応できている。また同系列事業所と連携と情報の共有に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、地区敬老会の参加、地域行事の見学、祭りの見学など、で知人、親戚、馴染みの方々と会われる機会をつくれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診で利用者の健康管理は出来ている。その他、家族の希望による島外専門医療機関受診については、看護師または、職員付き添いで受診を対応して、家族に結果報告をおこなっている。また島外の病院については家族の付き添いで月一回受診されている利用者もいる。	島内の診療所をかかりつけ医とし、月二回の往診支援が行われている。島外の受診は家族やホームで対応し受診結果を共有している。診療所は平日のみの開院である為、日々の健康チェックや月二回の体重測定等、入居者の体調管理に努め、早めの受診対応を心かけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理は、健康管理表を中心に把握出来ている。利用者の状態により指示が必要な場合は、敏速に対応、必要であればかかりつけ医療機関に対応できるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な利用者については家族に報告し、看護師、職員が定期的に面会に行き家族、職員に状況の報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の病名が判明した段階で家族、(必要あれば利用者)と話し合う時間を作り今後の治療方針、家族、本人の希望を優先に看護師、ドクターを交えて十分な話し合いが出来る時間を作り、職員に情報の共有を図っている。	協力医による月二回の定期往診や、島外のかかりつけ医への受診支援により入居者の異常を早期に発見し異常があれば今後予測される病状の進行に備え看護職員や担当医師を交えて話し合いの場を持っている。本人、家族の意向を最優先に希望があればホームでの看取りを支援している。協力医である診療所の週末休診を見据え職員は入居者の状態を観察しながら休み前に受診する等日頃より早めの対応をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル、基準、連絡網を作成し対応している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練に加えて、風水害のビデオ鑑賞などの勉強会を開催している。又近隣の方代表、消防団、警察、消防署にも運営推進会議に参加していただき協力を要請している。	総合訓練を含め年二回の消防訓練や自然災害のビデオによる研修会を開催している。災害対策を議題とした運営推進会議には駐在所や消防署分署、分団員にも参加を依頼し意見やアドバイスを受けるなど、地域の協力体制の構築に努めている。又、日々安全チェック表の記入により職員の意識付けが図られている。	運営推進会議の中で消防分団員より出された団員への車イスの操作や歩行介助方法などの講習会の開催や準備中である備蓄の実現にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室、トイレ、浴室などの入室についてはノックをしている。又言葉かけについても方言を交えながらも人格を損なわないような言葉かけをおこない呼び名についても「さん」付けで、人権を尊重している。	入居者を人生の先輩として尊重し、呼称も個々の希望や家族にも確認し苗字や名前に「さん」としている。居室やトイレなどノックや了解を得て入室し、トイレの扉には入居者間でも心がけてもらえるように、ノックについてのお願いが掲示されている。職員は常に入居者の目線に立った語りかけや誘導が実践されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示、または自己決定出来ない利用者については、利用者の反応と選択できるような言葉かけで自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンに合わせ、その日の体調に配慮した上で計画を立て、利用者の希望通り支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、衣替えは基本的に利用者に任せているが選択が不可能な利用者については、職員が手伝っている。男性利用者については定期的に散髪に出かけられ外出を楽しまれ、女性利用者の散髪は資格所有者の職員により希望に添った髪型を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をするだけでなく、味付ける、切る、盛りつける、洗うを、利用者個々の力量に合わせ支援をしている。利用者と同じテーブルで職員も食事を摂りながら会話を楽しんでいる。	入居者の希望も取り入れながら旬や地元の食材を活かした献立を作成し、入居者も一緒に食材切りや味見、盛り付け等が行われている。恒例になったお弁当の日は季節によっては駐車場スペースなど戸外で楽しんでいる。誕生会や行事食、おやつ作り、庭先でのお茶タイム、ドライブを兼ねた外食支援など多くの楽しい食事支援を職員・入居者が一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事、水分量のチェックにより、その日の健康状態の把握が出来ている。また、水分量が少ない利用者については好みの飲み物を提供したり、義歯有無で個々に合わせた献立を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日毎食後の口腔ケアを施行している。各利用者の力量に合わせて職員が手伝い、口腔内の確認もおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンに合わせて全職員が共通の対応で日中はトイレにて排泄でき、失敗についても何気ない声掛けで自尊心が傷つくことのないように努めている。夜間についても出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	個々の排泄パターンに応じた支援を全職員が把握し、日中はトイレでの排泄を支援し、夜間もできるだけトイレでの排泄に努め、歩行状態によってはポータブル使用の方もおられる。使用したポータブルは洗浄や消臭液、日光干しを行い気持ち良く使用できるように配慮している。又、今年度脱衣所にトイレが設置され、入浴前のスムーズな排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は牛乳を提供し、出来るだけ乳製品、食物繊維を多く含んだ食材を提供している。また毎日ラジオ体操、掃除など、体を動かしていただき自然排便出来るように支援している。調整困難な利用者についてはかかりつけ医師の指示のもと下剤を使用にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るが、入浴を好まれない利用者については、入りやすい雰囲気を作るための言葉掛けをおこない三日に一回の入浴ができるように努めている。夏には早朝からシャワーが出来るように準備している。	毎日入浴の準備を行い、希望や体調に応じ支援している。拒否の方へも職員の言葉かけやコミュニケーションにより少なくとも三日に一回の支援を行っている。季節風呂や入浴剤の使用したり、仲の良い方と一緒に入浴される方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は和室、居室、ソファなどでゆっくりしていただき利用者間のコミュニケーションも図れている。夜間の睡眠状態も眠剤、安定剤を使用することなくゆっくり休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬ケースに服用中の薬の明細を貼り全職員が確認できるように対応している。また薬の変更についても看護師により経過記録に記載し申し送りを徹底し間違いの無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割も定着している利用者についてはできることを継続していただけるように支援している。また家族より定期的に食べ物が送ってくるのを楽しみにしている利用者についてはお菓子を他の利用者に配ることで気分転換が図れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に一回は町外へ日帰り旅行に行っている。日常は定期的にドライブや家族に協力により、ふるさと訪問をおこなっている。また家族の帰省に合わせて食事もしていただいている。	入居者は日常的にホーム周辺を散歩し、愛犬と戯れながら戸外での時間を満喫している。玄関先での食事会や畑での野菜づくり等室内中心の生活にならない様多くの楽しみ事を企画し食材の買い出しや好こう品の購入にも出かけている。又年数回島外への日帰り旅行で花見や外食の機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来る利用者については外出を兼ねて買い物に行っている。また、職員付き添いにて銀行のお金を引き出しに行かれる等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話にはできるだけ本人と直接を会話していただき、会話の出来ない利用者については家族の協力で手紙、はがきを郵送していただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、トイレなどには四季に合わせて職員、利用者共同の作り物を掲示し、季節を関していただいている。また玄関、洗面所などには草花を飾りき季節を感じていただいている。	日中の大半を過ごされるリビングや和室は入居者の使い勝手を考慮しソファの位置を変更したり和室で横になれる方のプライバシーへ配慮しロールカーテンを振り付ける等工夫している。トイレや洗面台に季節の花を飾り、長い廊下には外出時の写真や、入居者が描いた初詣の絵馬が掲示されている。リビングの窓からは自慢の菜園を望み、騒音のない明るい空間で入居者は職員と会話しながら一日をゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各箇所に椅子を用意しており、掃除の途中に休憩を兼ねて気の合う利用者同士会話を楽しまれたり、喫煙所でゆっくり時間を過ごすなどされている。また和室は自分の居場所として一日中こたつで過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に利用者、家族に任せてあり、家族の写真やお気に入りの絵など個性のある空間となっている。	各居室はフローリングやフローリングと畳が一緒になったスペースにベットやタンス、小物、家族写真等、必要な品を持ち込まれ職員がこまめに掃除を行い清潔に保たれている。入居者の中には自ら衣類の整理や部屋の片づけをする方がおられ日課として楽しみながら継続されている。南側の居室からは眼下に海を望み入居者は馴染みの風景を見ながら安心して生活されている。	入居者のADLに応じながら居室作りに努めており、今後もホームでの生活が長くなられた方の為に、引き続き家族と連携しながら居心地の良い居室支援に努めていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内が見渡せる作りになっている為、どこに何があるのか理解されている。理解不能な利用者については職員がわかりやすく言葉掛けや誘導で混乱されることなく過ごされている。		